

学校規模適正化・適正配置に関する地域説明会(会議録)

1 日 時 令和7年7月11日(金)、18:00~19:20

2 開催場所 平田小学校 体育館

3 参加者 12名

4 事務局

【教育委員会事務局】

高橋勝教育長、川崎浩二教育部長、笹村聡一総務課長
佐々木薫学校規模適正化推進室課長、岩淵勝也学校教育課長
鈴木隆光学校教育課主幹、前川恵美総務課長補佐
谷藤太郎学校規模適正化推進室長補佐

【市長部局】

中村達也総務企画部長、佐藤貴之まちづくり課長、
前川奈津江こども家庭課主幹、正木浩二水産農林課長
遠野修正下水道課長、土橋照好防災危機管理課長

5 経過

(1)開会

(2)教育長あいさつ

(3)職員紹介

(4)説明

(教育委員会事務局から説明)

(5)意見交換(質疑応答)

【参加者】

今日で5回目という話を聞きましたが、毎回どのくらいの参加人数でしょうか。

【教育委員会事務局】

毎回、15人から20人程度となっております。今日も含めまして今のところ、合計9か所で説明会を開催する予定となっております。

【参加者】

学校にも説明をしていると思うけれど、保護者にもう少し集まってもらって、自分の子どもの時はどこの学校と一緒にになるとか、孫がどうなのかと考える人たちがもっと聞きに来て意見を言った方が良い。少し教育委員会の宣伝が足りないんじゃないかと私は思う。

【教育委員会事務局】

この基本方針を策定する前に保護者、PTAの集まりで説明しているというのが1つあります。あと、今年の4月に各小中学校のPTA総会の場で、基本方針の中身を説明してまいりました。今回は市内9か所で説明しますし、8月にはパブリックコメントを実施します。

今後、計画案の中身を小中学生の保護者や、今保育園、幼稚園に通っている保護者にも手に取って見られるようにすることを考えておりました。それを踏まえて、もう少し丁寧な意見交換が必要だという話がありましたら、改めて直接、対面で説明できる機会を設けたいと考えておりました。

【参加者】

合併するのはいいんですが、学校の先生はどのようにするんですか。合併する前に先生のほうが大事だと思います。学校は教育が一番大事。学校を少なくしたときに先生はどうするのか。先生を少なくするのか。合併するときには一番に先生のことを考えなければならぬ。今先生のなり手がいない。

【高橋教育長】

まず、小野市長が施策の1つに「教育の充実」を掲げ、教育を大事にしたいとしておりますので、私たちもその方針に則っていきたいと考えております。

先生については、釜石市の地元の先生が少ないことも課題ですので、なんとか地元の先生を揃えていくことも大事になってくるのではないかと思います。それから、学校が統合されたら、両方の学校の子どもたちにとって良い、先生方の配置を考えます。例えば、白山小学校と平田小学校が統合する時には、白山小学校で子どもたちのことを知っている先生も平田小学校に異動してもらって、子どもたちを見てもらおうといった事はしたいと思います。児童生徒の数によって先生の数も決まってくるので、学校が統合して学校数が少なくなると、全体としては先生が減るとするのはその通りですけれども、数は減っても先生方の質を維持するため、先生方を育てていきたいと思っております。

【参加者】

今日聞きたかったところが大体説明に入っていたのでよかったと思っているのですが、ただ、唐丹中学校が釜石中学校と統合して1校になるということですが、小学校はこの先もずっと残すのでしょうか。唐丹中学校がいずれ釜石中学校なりと統合するならば、唐丹小

学校はどうするのか。そういった場合には、私の頭の中では、「平田小と統合するのかな」、「白山小については、釜石小に行くのかな」、「数的にいくと、平田小学校と唐丹小学校の合併もあるのかな」と思っていました。ただ、学校というのは地域の歴史でもあり、地域の感情はかなりあると思うので難しいことだと思うのですが、唐丹小学校はずっと存続するという考え方なのでしょうか。

【教育委員会事務局】

基本方針では、まず小学校の複式の解消ということで、対象になるのは栗林小学校、白山小学校、唐丹小学校でした。ただ、今ある5つの中学校区の中で小学校を1校は残すという方針で、唐丹は唐丹中学校が先行して釜石中学校と統合する中で、唐丹小学校は複式ですけれども、そのまま残していくという計画となっています。ただ、この前期4年、後期4年の8年間の計画の中で、おそらく児童生徒の減少のスピードも年々早まる中で、唐丹小学校は引き続き、この計画ありきではなく実情に応じた在り方というのを、保護者の皆さんと意見交換して議論したいと考えているところです。

【参加者】

総合計画の中でも、学校の適正化については統合するのが大事だという事で、生徒も少なくなって仕方がないのかなと思いますが、総合計画の中に「地域で子どもたちを育む」みたいな文言が入っていたはずです。その中で、例えば、大平中学校の子どもが釜石に行くとなった場合に、地域との関わりがどの程度になるのか心配なところもあります。学校統合の計画と合わせてやられていると思いますが、地域づくりと一緒に、交流の場や活動の場を作りつつ、学校統合を進めてもらえればと思います。

【教育委員会事務局】

各地区で伝統芸能や地域行事は綿々と繋いでいただいているところで、そういった行事を担ってきているのも地域の小学生や中学生でするので、統合後に消えてなくなるということではなくて、学校は統合しても児童生徒は地域に残っていますので、その活動の場としての中学校、小学校の在り方、あとは地域との繋がりの在り方を、住民の方と意見交換をしてより良い形で残していくような取組を続けたいと思います。

【参加者】

自分の時には尾崎小学校があって平田小学校と統合しましたが、地域との繋がりは難しくなってくる部分が出てくると感じます。スクールバスの時間が決まっていて、小学校の子どもたちの遊ぶ時間が制約されている状況があります。それに関しては、可能であれば、学校が終わってスクールバスで帰るまでに遊べる場や時間が持てるような通学体制をとっていただきたいなと思います。人数が多いほうが、小さい頃から触れ合いの場を持つこと

が大事で、統合自体は必要だと思いますし、自分としては賛成ですが、通学と友達との触れ合い、交流の場という点を考えると、下校時間をできれば何パターンか選べれば。集団生活は学校が終わってからという所もあると思うので、検討していただきたいと思います。

【教育委員会事務局】

現状、市内のスクールバスは11台ございまして、10台で運行しています。帰りの時間は、中学校であれば部活動の延長など柔軟な対応も行っておりますので、今後は、統合が進みましたら、そういったところを学校や保護者の方と協議をしながら対応していきたいと思っております。

【参加者】

自分は統合賛成派ですが、唐丹小学校は複式で継続ということですが、地域の方の同意を得られることが大前提だと思いますが、職員数は変えないままで統合して、職員数をそのまま当てるという事はできないんですか。

【教育委員会事務局】

例えば、唐丹小学校に先生が5人、平田小学校に10人の先生がいたとします。唐丹小学校と平田小学校を統合したときに、15人のままで行けば生徒との関わりも維持できるんじゃないかということでしょうか。

【参加者】

教職員数も多くないので、そういった対応ができるのであれば、統合するメリットになるんじゃないかと思いました。

【教育委員会事務局】

統合になった際、生徒の人数に応じて学級数が決まっていきます。基本的には学級数に応じて、あとは生徒の人数に応じて配置される教員の定数は決められているものです。ただ、統合をした際によくとられる配置としては、統合して何年間かは統合後の色々な取組や子どものケア等が必要であろうということで、県でも加配ということで、通常の定数よりプラス1人とかいった形で配置する配慮をもらえるというのが、これまで統合をしている学校の教員配置に見られますので、子どもたちのケアや指導に当たれる教員の配置というのが期待できるかなと思っております。

【参加者】

教員数の配置には基準があるけれども、その権限については県にあるということですね。承知いたしました。

【教育委員会事務局】

白山小学校が平田小学校に来ると、おそらく、学童クラブを使う児童もいらっしやると想定しております。推計ですと、今の学童の面積だとちょっと面積が足りなくなるのかなという話も出ておまして、そのための対策として、1階の教室を改装して学童対応の教室にしたいなど考えているところです。

【高橋教育長】

今回、大きなところでは、中学校は5校から2校に集約するという方針を示しておりますが、その点についてはどうでしょうか。

【参加者】

釜石小学校と双葉小学校が統合して、場所をどっちにするかは決まっていないのでしょうか。

【教育委員会事務局】

今のところはそうです。

【参加者】

双葉小学校のほうが校庭は広いです。津波の浸水区域からも外れています。釜石小学校は高台にあるので、車の関係とか考えればちょっと厳しいのかなと感じているのですが、当然、スクールバスの送迎があるのでしょうかから、多少白山小の人たちが遠くなくても、双葉小のほうが場所的にはいいのかなと考えています。

【教育委員会事務局】

双葉小学校と釜石小学校の統合につきまして、例えば、栗林小学校と鶴住居小学校ですと、栗林小学校の保護者との事前の意見交換やこの春のPTA総会での説明の中で、ある程度、鶴住居小学校の統合と時期についても保護者の間で合意を得られているということがあったのですが、双葉小学校と釜石小学校については、それぞれの保護者に、この春、PTA総会で基本方針を含めて説明はしましたが、実はこの統合案について、統合の年度、どこどこが統合するということは、この計画(案)で初めてお伝えするタイミングでもあるので、双葉小学校ありきとか釜石小学校ありき、使用校舎がどちら、という示し方ではなく、まずは両方対等な関係で、校舎は両睨みの計画案になっておりました。

【参加者】

趣旨から外れますが、教育委員会の方がいるので確認ですが、中学校で部活動がなく

なると聞いたのですが、何年からですか。

【教育委員会事務局】

部活動がなくなるということではないのですが、現在は学校が主体的に行っている部活動が、だんだん地域が主体となって行うように切り替わっていくと捉えていただければと思います。差し当たって国としては、休日、土日・祝日の部活動は学校が主体となるのではなく、地域と連携して、地域が主体となって活動を行っていく体制づくりを各自治体で進めるということで、釜石市でも進めているところです。現状は、地域の受け皿や指導者がなかなか見つからないというところで苦慮しておりますが、部活動については、そういった方向で動いていくこととなります。しばらくは、平日の部活動については、中学校で担っていく部分は大きいと思っています。

【参加者】

先ほど、学校の帰る時間について質問させてもらったのですが、部活動の地域移行については把握しておりましたが、その時に活動の延長があった場合は送迎が出るのでしょうか。それは検討されていますか。

【教育委員会事務局】

地域移行していくということであっても、子どもたちの活動を充実させるために、教育委員会としてできることはどういう部分か、継続して検討していかなければならないと思っております。ただ、現状、どのくらいの規模でどういった時間で等、なかなか見通しが持てない部分ですので、今のところは明確な回答ができませんが、いずれそういった子どもたちの活動について、様々なサポートができないかなというところは、引き続き教育委員会として検討していきたいと思っております。

【参加者】

部活動の送迎について、趣旨とずれますが、親が忙しくて行けない場合もあるので、そこは考慮していただければと思います。よろしくお願いいたします。

【教育委員会事務局】

昨日、栗林地区で説明会を開催しました。地域の方から、栗林小学校が統合した後、校舎及び体育館の跡地利用についての質問もございました。回答としては、現在、市長部局と教育委員会と今後の統合に向けた庁内の検討委員会を策定しており、統合が進んでいった場合に、閉校した学校施設をどのように活用していくかというのは、今後、庁内ですとか、あるいは地域の皆さんと話し合いを持ちながら進めたいと考えているところです。

そろそろお時間となりますが、最後に発言したいという方はいらっしゃいますか。

【参加者】

統合の話で、当事者の生徒との意見交換等はあるのですか。

廃校後の校舎の活用とか、統合に関しても、説明すると中学校の生徒はいろいろと判断できる部分もあると思います。中学校の生徒がどう考えているのか、地域づくりや自分たちの地域を考えるいい機会になるのかなと思って、大人だけで決めるのではなく、当事者の意見を吸い上げて、子どもたちの考えを聞く機会があればいいのかなと思います。

【教育委員会事務局】

昨年度、市長から市内の中学生に、市長講話という形で、学校規模の適正化、平たく言うと学校の統廃合が必要であることを説明しました。

教育委員会でも、中学生に現状を説明した上で、アンケートを実施したりしました。中学生も気持ちは半分大人で半分子どもの部分がありますけれども、そういった市の現状を踏まえれば、統合は必要なんだと、自分たちの学びの場の確保ということで必要だと理解していると、アンケート結果を見て感じました。

やはり、中学生は、学校生活の満足度は、学習が半分でそれ以外の半部分が部活動という部分もあります。その部活動が、現状のお話がありましたが、チームスポーツの野球やバスケットボール、バレーボールなど、なかなか単独の学校ではチームが組みづらい状況で、学校を統合すれば団体競技も楽しめるのではないかと、他の学校行事でもいろんな楽しみが増えるのではないかと期待感もアンケート結果から感じていました。一方で、今までと違う場所の校舎に通学する通学そのもの、あるいは友達関係の不安ということも、アンケート結果で見て取れましたので、ぜひ、そういった配慮は、教育委員会、学校としても続けていきたいと考えているところでございました。

【教育委員会事務局】

それでは、このあたりで質疑応答は終了とさせていただきますと思います。たくさんのご提言、ご質問ありがとうございました。

【高橋教育長】

(あいさつ)

(6) 閉会